さくら市議会広報委員会県外視察報告

〇日　時　令和６年７月４日（木）～５日（金）
〇参加者　大河原副委員長、小堀委員、鈴木委員、石岡委員、若見委員、永井委員、落合委員、
加藤誠一委員、加藤朋子委員長及び事務局職員２名
〇訪問先　埼玉県所沢市、さいたま市
〇視察内容　議会広報紙の編集及び広報広聴活動について

所沢市

所沢市は人口約３４万人、日本で初めて飛行場から飛行機が飛んだ「航空発祥の地」として有名であり、日本３大銘茶である狭山茶の産地としても知られています。所沢市議会は定数３３人であり、うち広報公聴委員は１２名です。

＜広報紙＞

所沢市議会広報紙「ところざわ市議会だより」は市にゆかりのある様々な分野で活躍している人物を表紙で取り上げ、インタビュー記事も掲載しています。また定例会での議案審議や一般質問、議会レポート等はコンパクトにまとまり、余白を生かした見やすい紙面構成になっています。令和３年４月１５日発行の１９８号より、それまでの新聞折り込みに代えて、シルバー人材センターに委託してポスティングによる全戸配布を行い、より多くの市民の手元に届くようになりました。

＜広聴広報活動＞

所沢市議会は早稲田大学マニフェスト研究所が毎年公表している議会改革ランキング２０２３年で、全国１９位（埼玉県内一位）と高い評価を得ています。広聴活動も実に多彩な活動を行っていました。議会基本条例に基づく「議会報告会」（平成２２年５月より）、様々な政策立案、政策提言を推進するため議員間討論を公開で行う「政策討論会」（平成２４年２月より）若年層と議員の対話を目的とした「みみ丸カフェ」（平成２８年７月より）、市内に２校ある高校の高校生を対象とした「高校生との意見交換会」（令和４年７月より）など、議会と市民の様々な対話、意見交換の場を設けています。その精力的で積極的な議会活動に圧倒されました。他にも早稲田大学と連携協定を締結して、議会に学生のインターンを迎え、議員の一般質問を一問担当して、取り組んでもらう等ユニークな活動も行っています。

研修の様子

所沢市キャラクター（トコろんとみみ丸）

さいたま市

さいたま市は埼玉県の県庁所在地であり、人口は約１３５万人です。平成 13 年 5 月に旧浦和・大宮・与野の 3 市合併により誕生し、平成 15 年 4 月 1 日には全国で 13 番目の政令指定都市へ移行しました。さらに、平成 17 年 4 月 1 日の旧岩槻市との合併を経て、関東圏域を牽引する中核都市となりました。さいたま市議会は定数６０名、そのうち１１名が議会広報編集委員会に属しています。

＜広報紙＞

市議会だよりさいたまは愛称「ロクマル」で、議員の数６０を現しています。平成２１年の紙面リニューアル時に、第一印象で手に取りたくなる冊子を目指して、表紙に優しいタッチのイラストを採用しました。又写真やイラストを多用し、ポイントを絞った文章と内容で、紙面をコンパクトにまとめています。特筆すべきは一般質問の項で、質問者の名前を紙面に載せていない点です。「あくまでも広報紙は議会の動きを伝えるもので、個人のパフォーマンスの場ではない」と言う意見と、「個々の議員の働きぶりを市民に知らせるべきだ」と言う、相反する主張があり、協議の末現在の掲載方法を採用しているそうです。配布は市内全世帯にポスティングによって行っているほか、公共施設や駅等にも配架しています。

＜市議会オープン委員会＞

さいたま市議会では平成２０年から学識経験者や有識者を招聘して議員研修を行い、それを一般に公開していました。平成２６年にはそれを「オープン委員会」と名付けて開催要領を制定し、それぞれの委員会が必要に応じて一般公開で委員会を開催し、講師の講義を受けた後は、一般の傍聴者からも意見をもらう等の活動を行ってきました。最近は若者の声を聴こうという事で、市内の中高一貫校の皆さんと意見交換会を行いました。さらに２５歳以下の市民を公募して「若者が住み続けたいと思う魅力あるまちとするためには」というテーマで、意見を発表してもらうオープン委員会を現在企画しているそうです。

研修の様子

さいたま市議場

感想

どちらの市議会も議会報は手に取りたくなる、魅力あふれる紙面だと感じました。但し編集の大部分は、議会事務局の担当者と業務委託を受けた企画・デザイン会社が担っており、議員は最終確認の部分に関与しているのみだそうです。

広聴に関しては、企画・立案から実施まで議員が手掛けており、どちらの市議会も、これからは若者の意見を重視し、尊重していきたいと、とかく政治や議会と距離があると言われる若者が、政治に関心を持って参画してくれるよう試行錯誤して取り組んでいました。今後のさくら市での意見交換会で実施してみたい実例を多く紹介いただき、大変参考になりました。